

タイトル	崩壊地を再生する「芽吹き of 砦プロジェクト」	
概要	<p>天然林約740haを村が購入し「水源地の森」として保全整備を行う。かつてパルプ用材の伐採等により荒廃したエリアでは、公益財団法人「森と水の源流館」と協働で、「芽吹き of 砦プロジェクト」を実施。企業や団体と連携しながら、間伐材を利用した柵を設置。土砂崩落を防止するとともに、広葉樹の森の再生活動を実施している。</p> <p>また、「源流学」をキーワードに、学校や企業・団体等の研修や環境教育、調査研究の場としても活用している。</p>	
管理方法・技術的視点	<p>川上村では、吉野川源流部の三之公地区の原生林を「水源地の森」として保全している。しかし原生林の一部には、かつてパルプ材として伐採が進んだエリアがあり、その後、雑木の二次林として再生しているが雨により土砂が崩れ、斜面崩壊が進んでいる箇所が多く見られる。そこで、崩壊を防止すべく、崩壊斜面に木柵（「芽吹き of 砦」）を設置し、土留めを行いそこに新たな雑木が根付きやすくする環境をつくっている。この木柵設置には、吉野杉の間伐材を使い、人工林の循環促進にも寄与している。</p> <p>プロジェクトの費用には、森と水の源流館が呼びかける「森守募金」を主にあてており、また様々な団体や企業からの協力を受けている。</p>	
備考	<p>吉野川・紀の川の源流に位置する川上村。「源流学」をキーワードに流域の人々（行政、学校、企業等）との連携しながら、源流の森の保全再生活動や交流・ツーリズムを行っており、村の活性化にもつなげている。</p>	<p>設置された崩壊防止柵「芽吹き of 砦」</p> 
場所・主体	奈良県川上村・森と水の源流館	
URL等	http://www.genryuu.or.jp/index.htm	